

アートと文化が誰にも近い街」を目指し、「アートと生活」をテーマとして、芸術や文化に親しんで頂くきっかけを提供する芸術文化講座。各分野の専門家が、アートがはじめての方々にはやさしく語りかけます。2023年10月(第46回)は「アート・ミーツ・シネマー戦後日本の美術映画と2つの美術館」です。

< 2023年10月(第46回) >

アート・ミーツ・シネマ —戦後日本の美術映画と2つの美術館—

戦後、日本の映画館と入場者数は拡大しましたが、その陰で記録映画の世界も新たな盛り上がりを見せ、「美術映画」という新分野も徐々に注目され始めました。「美術映画」とは、美術作品や芸術家を題材に扱ったドキュメンタリー映画のことで、戦後になり欧米を中心に製作の機運が高まっていました。ブリヂストン美術館(現アーティゾン美術館)はこの新分野にいち早く取り組み、1950-60年代に17本の美術映画を製作しました。同じ頃、近隣にある東京国立近代美術館の中にフィルム・ライブラリー(現国立映画アーカイブ)も誕生し、一般に向けた上映会で国内外の「美術映画」を紹介していました。戦後急速に発展した「美術映画」と、2つの美術館の関係をお話いたします。

日時: 2023/10/11(水) 18:30~20:00(開場18:00)

会場: ミュージアムタワー京橋16階 Café 16
(交差点側の入口よりご入館ください)

形式/定員: 会場集客/60名(申込先着順)

参加料: 無料

申込方法: Peatix(<https://peatix.com/event/3688813>)

右のリンクボタン(またはQRコード)より
お申し込みください。[申込開始: 2023/9/20(水)]

開催当日に会場にお越しになれない皆さんのため、後日アーカイブ映像をWEBサイトにアップロードします。



お申し込み
(Peatix)

講師



©八島崇

岡田秀則氏(国立映画アーカイブ主任研究員)

1996年より東京国立近代美術館フィルムセンター(現・国立映画アーカイブ)に勤務。映画のフィルム/関連マテリアルの収集・保存や上映企画の運営などに携わり、2007年からは映画展覧会のキュレーションを担当。単著に『映画という《物体X》フィルム・アーカイブの眼で見た映画』(2016)、編著に『そっちやない、こっちや 記録映画監督・柳澤壽男の世界』(2018)、監修書に『映画ポスターの歴史』(2019)、『昭和の映画絵看板』(2021)など。



田所夏子氏(石橋財団アーティゾン美術館学芸員)

2005年よりブリヂストン美術館(現アーティゾン美術館)学芸員。近年企画・担当した展覧会に「創造の現場—映画と写真による芸術家の記録」展(2023年)、「はじまりから、いま。1952-2022—アーティゾン美術館の軌跡」展(2022年)、「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×森村泰昌 M式「海の幸」—森村泰昌ワタシガタリの神話」展(2021年)など。